



R元年7月 2日
ひよこ組
No. 3
富岡保育園

今年は例年になく梅雨入りが遅く、7月になろうかという時にやっと梅雨の時期を迎えましたが、梅雨入りした途端の急な土砂降り、ご家庭の皆様のところは大丈夫だったでしょうか。被害がないよう祈るばかりで、どうぞお気をつけください。

雨が降ると気温や湿度も高くなり、部屋の中は空調の上に扇風機を回しても蒸し暑い日もあります。この時期心配なのは、「熱中症」です。戸外だけでなく、室内でもなると言われます。水分補給をしたり、体調を見ながら沐浴をしたりして、はじめての夏を過ごす子どもたちが元気に、心地よく過ごせるようにしたいと思います。

今ひよこ組は・・・

6月から新しいお友だち後藤楓（ごとうかえで）ちゃんが入所して、6名になりました。目が覚めているときは、みんなの顔が見えるところに来てみんなの声を聞いたり、動きを追ったりしています。泣いていても抱っこされると泣きやんでくれ、声をかけると笑ってくれるようになりました。

6月は朝から散歩にも出かけました。梅雨になると外にも出られなくなるので朝の涼しいうちに出かけました。散歩車に乗り、犬を見たり、車を見たり園に帰るころには、揺られて気持ちよくなり眠ってしまうこともありました。泣いていても外に出ると自然と赤ちゃんが笑顔になるから不思議です。

月齢差があるひよこ組さんなので、小さい赤ちゃんが眠っているときは、歩行開始期の子どもたちはベランダに出てしっかり体を動かして遊びます。りす組さんと一緒に遊んだり大きい子どもたちと遊ぶ中で刺激をもらいながら遊んでいます。眠たい時には、静かなところでぐっすり眠り、目覚めたら離乳食をゆっくり食べたりと、一人ひとりのリズムに合った生活ができるようにしていきたいと思っています。

梅雨が明けたら、水を使った夏ならではのあそびも楽しめるかなと、先日はカメさんプールをだし、小ささまざまなボールを入れて、ボールプールで遊びました。プールに入るには、高さがあるのですが手を先について、足をあげて自分から中に入っていく姿にびっくり！！「自分も」と子どもたちの気持ちが動きに出たのかなと、この遊びを楽しんでいることが分かり、うれしかったです。梅雨が明けたら、温水を入れて、また遊びを広げたいと思っています。



育児情報



先日、保育研修会に参加された吉田先生と清水先生から、「おんぶは大事」という話を聞きました。講師の山田真理子先生の本の中に、「**おんぶされた背中で、貴重な体験をしている**」と、詳しく書いてありました。ぜひ、お母さん方に読んでいただきたいと思い紹介します。

背中で聞くことばと実感

かつて日本の子どもたちは、養育者（母親や祖母、保育者）の背に負われて過ごす時間が長くありました。おんぶというこの育児の形は、ほとんどの家事がそのままできることから、家事労働が今ほど自動化される前の赤ちゃんは背中に負われたまま家事や外出と一緒に体験していたといえるでしょう。

料理ができてくればいい匂いを一緒に嗅ぎ、外に出れば同じ風やまぶしさを一緒に感じ、掃除機の音も外からの声も、負ぶわれた赤ちゃんは共有していたのです。「寒いね～」は寒さと共に感じ、「美味しそう!」はいい匂いと共に感じていたのです。そこでは、ことばに実感が伴っていました。

このおんぶという子育ての形が一気に失われたのは1980年代。一体何があったのでしょうか？一つには、日本が豊かになって母親もマイカーを運転する時代になり、子どもを連れての移動手段として車が一般化したこと。もう一つには、家にいてぐずった子どもをおんぶしなくても、いつでも子どもの気を引きつけてくれる「ビデオデッキ」が家庭に普及したことでした。その結果、母親のことばもテレビから流れてくることばも、子どもの実感から遠ざかっていったのです。

さらにおんぶは、眠くなった時にほとんどそのまま寝つかせていました。おんぶしている大人は、眠くなった赤ちゃんに向けて、子守歌や何やら唱歌のような声をかけ続けていたようです。背中の赤ちゃんからいえば、自分が眠くなると寝付くまでゆっくり揺られ、声をかけられ続けたことになります。眠くなるときはたいがい、お腹がいっぱいで、お尻も濡れてなくて、暑すぎもせず寒すぎもせず、満足しているといえるでしょう。そんな「気持ちのよいときに、人の生の声で包まれる」という体験が、おんぶで寝つかせられるときにあったのです。「気持ちいいときに自分を包んでくれる声」…それが繰り返されると、赤ちゃんの身体中には「人の声って、気持ちいい」と感じる条件反射が生まれます。そして「気持ちいいものは、もっとほしい」「気持ちいいものに、もっと近づきたい」それが、「身体をのりだす」とか「耳を傾ける」という態度の原型となります。つまり人の話を聞く態度とは、「前を向いて聞きなさい」などと怒ってできるのではなく、「人の声の心地よさ」を知っている身体を持った子どもは、「人が話していると、耳を傾けて聞くようになる」ということだと思います。

おんぶがなくなった1990年代ころから、人の話を聞けない子どもたちが増えてきます。おんぶではなく、離れた部屋でテレビの前で眠りにについていた赤ちゃん。彼らにとって心地よい音が人の声ではなく、機械音であったりテレビ音や雑音であったりするのかもしれないと感じてしまいます。

「ことばが育つ保育支援」山田真理子先生より
続き「ハイハイとことば」については、次の号でお伝えします。

パパ・ママクッキング

先日開催したパパ・ママクッキングは、3名の参加をいただきありがとうございました。予定では、他にも参加を楽しみにしているというお母さんがいらっしゃったのですが、用事ができ、参加は少なかったのですが、調理をしながら話も盛り上がり、笑いありと楽しそうでした。

家族の食事を作りながら今の子どもたちにあった献立を作り提供する、それも毎日のことで大変に感じられているところも少なくないと思います。でも、愛する家族のために作り、「おいしい」と食べてもらえ、笑顔になり、「食べてくれると作り甲斐があります」という声もありました。

短い時間ではありましたが、大人のメニューからとりわけて作る離乳食を紹介したり、作り置きしておく献立の一品がすぐできる「しっとり鶏ロース」は、「うちの子お肉大好きなので、簡単に作れていいですね」と言って下さいました。園のおやつの中でも人気がある「パウンドケーキ」も型がなくても、お家にある牛乳パックを使って焼き上げると「これでできるんですね」と驚かれていました。中には、「お家で、子どもと一緒に作れますね」と、お家でも作ってみようと思って頂き、うれしかったです。

出来上がった料理を試食しながらおかあさんたち同志の情報交換もできました。今回は、「水分補給をするときは、何を飲めますか」と実際に販売してある、ジュースやペットボトルのお茶などを用意し、沸かした麦茶とペットボトルの麦茶を飲み比べると「味が違いますね」という声もありました。

これから暑くなり、水分補給をすることも多いですが、小さい子どもたちは自分で選んで飲むことはできません。与える大人がどんなものを選んでいけるかが大事です。「食品添加物」は、買って食べているものに多く入っているというのを実物を用意して、見比べてもらいました。すると「これ、好きでよく買います」「食べています」と声が上がっていました。添加物がないものを探すととなると大変ですが、できるだけ、これから大事な脳や身体を作って大きくなっていく子どもたちには、添加物の少ない物を食べさせてもらいたいと思います。買い物をされるとき、裏の表示をちょっと見られてみてはいかがでしょうか。

○今回も楽しんで参加させて頂きました。

いつも子ども達が食べている料理を知ることができ、家でも「やってみたい」という思うものもありました。子どもたちと一緒に料理してみたいです。

○今回「パパママクッキング」を通して、子育て世代の方たちと交流が出来、本当に良かったです。

料理も美味しく、家でも挑戦できそうなレシピだったので、今度作ってみようと思いました。

献立

- ・揚げ鶏のねぎソース
- ・しっとり鶏ロース
- ・キャベツのポタージュ
- ・きゅうりと晩柑の酢の物

おやつ

- ・牛乳パックで作るパウンドケーキ
- ・じゃが芋餅・ポテトピザ



夏がやってきました。水分補給お家ではどうされていますか？

何を飲むの、食べるの、水分補給

街で売られている飲みものには、いろいろなものが添加されていて、子どもには好ましくないといわれています。しかし水分の不足は体に悪いので、一定の補給をしなければなりません。何を飲んだらよいでしょう。

水分補給、まずは食事から

水分の補給は、飲料水からだけではありません。まず食事からとります。ごはんやおかずには水分が含まれています。そして汁物をつつつけて、一緒にいただきましょう。

汁物は、ごはんやおかずを消化するのに最適なものです。また、適度な塩分を含んでいるので、体内の塩分濃度を一定に保ってくれます。味噌汁やすまし汁、スープなどの汁物は最良の水分補給になります。保育園の給食にも必ず汁物がついています。

水や麦茶、ぼん茶で補給を

食事に汁物がついていないと、のどが渇いて、市販の飲料で水分を補給しようとしがちです。また、子どもは食事の汁物だけでなく、水分をさらに必要とします。

その時には、水や麦茶やぼん茶のような、味の無い飲み物を出しましょう。これらは添加物も少ないので安心です。

幼児期になると、のどの渇きにに応じて自分から水分補給をすることができるようになるので、食事をしっかり食べることによって、飲料水などの水分のとり過ぎになることも防げます。

しかし、安定した日常が維持できない時があります。外出時などには市販の飲料水は便利なものですが、品質や内容物をしっかりチェックすることはむずかしでしょう。非日常を早く解消して、適正な水分補給の日常に戻りましょう。

食べ物文化 2017 7月号より

離乳食よく食べますね 離乳食を見たいと来ら

れたので、おかあさんに食べさせてもらいました。

後藤楓ちゃん（5ヶ月）（1回食）



松村きずくくん
九ヶ月
三回食